

DATA ANALYSIS CENTER FOR GEOMAGNETISM AND SPACE MAGNETISM  
operating WORLD DATA CENTER C2 FOR GEOMAGNETISM

### 1. 新着地磁気データ

前回ニュース（1992年5月25日発行）以降入手したデータの内、主なものは以下のとおりです。（観測所名の省略記号等については、データカタログまたはデータベース 'GEOMAG' をご参照ください。）

#### (1) アナログデータ

ノーマルランマグネトグラム：

Memambetsu, Kakioka, Kanoya (Jan-Mar, 1992); Sodankyla (Feb-Apr, 1992);  
Brorfelde, Godhavn, Thule, Narsarsuaq (Mar-Apr, 1992);  
Nurmijarvi (Feb, Apr-May, 1992)

観測所年報等

College (May, 1992); Niemegk (Mar-Apr, 1992); Sodankyla (1990);  
Nurmijarvi (Feb, Apr-May, 1992); Kanozan, Mizusawa (1990)

#### (2) デジタルデータ

地磁気1時間値：

Chichijima (Apr-Dec, 1991), Luning (May-June, 1992)

地磁気1分値：

Kakioka, Kanoya, Memambetsu (Apr-May, 1992); Luning (May-Jun, 1992);  
Leirvogur (Apr-Jun, 1992); Valentia (Mar-Jun, 1992);  
Chichijima (Apr-Dec, 1991); Tromso (1990); Hatizyo (Jan-Mar, 1992)

地磁気1秒値：

Kakioka (Apr-May, 1992)

#### (3) Kp指数

Kp指数表 (Apr-May, 1992)

なおデータの注文等は、当センター宛、書面またはFAXにてお願いいたします。

### 2. AE指数の算出と配布

1987年前半（1月-6月）の1分値AE指数（AE, AL, AO, AU）を算出し、国立極地研究所と共同で、出版および必要機関への配布をおこないました。

### 3. オンラインデータベースの更新

京都大学大型計算機に構築し、N1ネットワークを通して公開サービスしておりますデータベース 'GEOMAG' のテーブルDSTKPには、92年2月、3月および4月分を追加しました。（Dst指数の1986年以降分は追加されておりません。）

#### 4. 寄稿 『「北極星」は真北にはなかった』

昨年11月25日発行のニュース(No.10)に寄稿していただきました京都の歴史研究家 堀貞雄氏より、その補足とともに、平安京の方位決定に関する興味ある話題をいただきました。

#### 『北極星』は真北にはなかった 堀 貞 雄

昨年11月25日付センターニュースに『北極星』と『磁北』という題の拙文を載せて頂きましたが、最近になつてとんでもない間違いを、それも2度もしていたことが分かりましたので、お詫びして訂正させて頂きたいと思います。

1つは平安京の方位決定に『北極星』を利用したことは京都府埋蔵文化財研究センターの論文からとしています。これは少し飛躍で、実際はNHKの1988年特集『平安京再現』のビデオで『北極星』を利用した縄取りの実演をしていたのを見てでありました。

もう1つの誤りは肝心の『北極星』は平安京建都の794年頃は真北には無かつたことです。NHKも必ずしも万全ではないことがよく分かりました。

次の数字は京都大学花山天文台に教えた「北極星」のズレ（円錐角の半分）です。

西 暦	ズ レ
0年	10° 45'
500年	8° 02'
1000年	5° 17'
1500年	2° 30'
2000年	0° 17'

平安京建都の794年の値を補間して求めると 約6° 25' ということになりますが、これでは「北極星」は真北からかなり離れていたことになり、とても縄取りに利用できるものではなかつたのであります。

では何で平安京の南北の方位を決定したかという、京都市埋蔵文化財研究所の見解は太陽の影の軌跡を利用した「インディアン・サークル法」を用いたということです。

「インディアン・サークル法」というのは、水平面に画かれた円の中心に垂直に立てた細い棒の尖端の太陽の影の軌跡と円との2つの交点を結んだ直線を真の東西の線とし、それに直角な直線が真の南北の線とするものです。

中国古代の天文学書にも載っており、エジプトのピラミッドの基礎はこの方法で方位を決めたと推定され、恐らく古代畿内の測量はこの方法で真北方位を観測したとされていることが分かつた次第です。以上、お詫びして訂正します。

ところで、最近、京都市埋蔵文化財研究所の御好意で、平安京の〔MODEL99〕のデータを頂き、それから『平安京のXY座標』（第VI座標系）を求め、平安京の大路・小路を1万分の1の地形図に載せることが出来ました。中々面白いものです。例えば京都御所は西側は東洞院大路に、東側は万里小路に奇麗に接していたことがよく分かります。

いずれにせよ、平安京が極めて高い精度の縄取りをされていたかに感心させられておりますが、同時に、南北の方位が0° 14' 余も西に振れていることが気になつております。上記のインディアン・サークル法の地球の公転による偏差なのか、或いは地軸の永年移動によるものか、と思つたりしていますが、素人にはムリなテーマのようです。